

ベトナムにおける愛媛県産材の輸出・利活用に関する視察報告書

令和 8 年 9 月 3 日 ZEN ART 社建築の木造建築物視察（ホーチミン市）

（対応者：ZEN ART 社 社長 Zen 氏）

令和 8 年 9 月 3 日、ベトナム・ホーチミン市に建築されている愛媛県産ヒノキを活用した木造建築物の視察を行った。

視察した建築物は、全て SAWA（STRUCTURE ARCHITECTURE WOOD ASSOCIATION、ベトナム国内における持続可能な木造建築を推進する木材関係者が構成する非営利団体）の会員である ZEN ART 社の代表 Zen 氏が手掛けたものである。設計・建築に携わった Zen 氏は、元々は石や銀、木材を使う彫刻家であるが、その繋がりでも建築物にも木材を使うようになった。以前より TAVICO から愛媛県産スギ・ヒノキを購入しており、木造建築だけでなく、将来的には、彫刻に使う木材にも日本の木材を活用したいという思いがある。

1 か所目の視察は、貿易会社（Thai Binh Investment Trading Corporation）敷地内に建築された茶室。当該貿易会社の社長夫妻が日本好きで、5 年前に日本庭園風に設計された。庭園内に建築された茶室の他、同じ敷地内にある調理棟の外壁目隠しや食堂の梁・照明等に愛媛のスギ・ヒノキが使用されている。また茶室は、スギ・ヒノキの色の経年変化も楽しめたく、あえて塗装なしで使用されていた。



2 か所目の視察は、ZEN ART 社の作業工場の休憩所。屋根にヤシの葉を使うハノイの伝統的な民家を壊す際、まだ使用できる部材を調達し、当該作業工場に移設。休憩所の屋根の一部に愛媛県産ヒノキが使用されるとともに、ヒノキより柔らかいスギは、羽目板や天井板、壁板に使用されていた。さらに作業工場敷地内に作られた日本庭園においては、ヒノキで門が立てられるとともに、門の屋根にはヒノキの樹皮を使用。さらに、庭園内のデッキや橋、椅子にも、それぞれスギ・ヒノキが使用されていた。



3か所目の視察は、ファスナーのベトナムシェア 90%を誇る HKK 社（創業 40 年、社員 700 人）や不動産業を営むグループ会社（HOÀN MỸ）の経営者の別荘。視察した別荘は敷地面積 4ha、日本庭園や別荘の拡張工事を Zen 氏が手掛けている。経営者から Zen 氏へ発注される工事は当該別荘で 3 工事目。当該経営者が所有するヴァンタウ市で一番大きい別荘もヒノキを使用して建築されており、今後も木造工事を Zen 氏へ依頼予定とのことであった。このほかヴァンタウ市には、今後 10 棟のリゾートを建設予定であり、今回の打ち合わせにおいて、その 10 棟全ての設計を Zen 氏に発注するとともに、愛媛県産ヒノキ材を使用することが決定された。

経営者によると、ヴァンタウ市等と合併し拡大したホーチミン市は今後リゾート計画がどんどん伸び、不動産投資の未来は明るいと予想。住宅需要もたくさんあることから、木造住宅も必ず増えてくるとのことであり、今後当該会社が手掛ける別荘プロジェクトには、全て愛媛県産ヒノキ材を使用したいとの意向が示された。



令和 8 年 9 月 4 日 TAVICO GROUP 視察（ドンナイ省）

（対応者：TAVICO GROUP 社長 VO QUANG HA 他、JP WOOD PRODUCTS 鈴木社長）

令和 8 年 9 月 4 日、ベトナム・ドンナイ省に所在する TAVICO GROUP を訪問し、愛媛県産材の輸出・加工状況、ベトナム国内における日本産材の需要、今後の木材利用の可能性等について調査を行った。

TAVICO GROUP では、2019 年に新工場を建設しており、約 40 ヘクタールという広大な敷地に国内外から木材を集積し、製材・加工を行った上で出荷している。現地では大量の木材が保管されており、ベトナム国内における木材産業の規模と活力を実際に確認することができた。

愛媛県からは、愛媛県森林組合連合会を通じて主にヒノキの原木が輸出されており、その規模は最も多い年で年間約 200 本の 40 フィートコンテナに上るとの説明を受けた。輸出された県産ヒノキは、現地工場において製材・加工された後、家具の製作や木造住宅などに活用されている。

TAVICO GROUP では、単に木材を製材・販売するだけでなく、今後、ベトナム国内における木造住宅の建設を進めていくことも視野に入れ、現在、調査研究を進めているとのことであった。

日本では古くから木造住宅が一般的である一方、気候や生活文化の異なるベトナムにおいて、日本産材を活用した木造住宅がどの程度受け入れられるのかは、今後の市場開拓を考える上で大変興味深い取組である。

ベトナムは近年、急速な経済成長を続けており、所得水準の向上や都市化の進展に伴って住宅や家具等に対するニーズも変化している。価格だけではなく、品質、デザイン、安全性、快適性といった付加価値を求める消費者が増加すれば、高品質な愛媛県産材にとっても新たな市場が開ける可能性がある。

意見交換では、まず、ベトナムにおける日本産材の位置付けについて質問した。

日本産材は、他国から輸入される木材と比較すると価格が高く、現時点では必ずしも大きな需要があるわけではないとの説明であった。一方で、今後、ベトナム国内で富裕層がさらに増加することによって、品質や付加価値を重視する市場が拡大し、日本産材の利用も増えていく可能性があるとの見解が示された。

価格競争だけで考えれば、日本産材が安価な海外産材と競争することは容易ではない。しかし、日本産材、そして愛媛県産ヒノキの持つ品質や香り、木目、加工性などを生かし、「安い木材」ではなく「価値のある木材」として市場を開拓していくことが重要であると感じた。

また、日本国内の愛媛県以外の地域からヒノキ等を輸入しているのか質問したところ、現時点では愛媛県以外との取引は行っていないとのことであった。

愛媛県との取引については、これまで築かれてきた人的なつながりや信頼関係を非常に大切にしているとの説明があり、TAVICO GROUP 側からも、今後さらに愛媛県との関係を深めていきたいとの意向が示された。

海外への販路開拓というと、価格や品質、物流コスト、為替などの経済的条件に目が向きがちであるが、今回の意見交換を通じて改めて感じたのは、「人と人との信頼関係」の重要性である。

特に海外で新しい市場を開拓する際には、一度の商談で取引が成立するものではなく、現地企業との交流を継続し、互いの考え方や文化を理解しながら信頼を積み重ねていくことが必要である。現在、愛媛県産材が TAVICO GROUP との取引につながっている背景にも、これまで関係者が築いてきた人的ネットワークがあることを実感した。

さらに、気候変動に伴う木材への影響や今後の取組についても意見交換を行った。

TAVICO GROUP では森林保全にも取り組んでおり、木材を事業として活用する一方、森林資源を持続可能な形で維持していくことにも関心を持っていることが確認できた。

世界的に脱炭素社会への移行が求められる中、再生可能な資源である木材の価値は今後さらに高まる可能性がある。森林を適切に管理し、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を確立するためにも、木材需要そのものを拡大していくことは重要である。



質疑終了後には、新工場内を視察した。

特に印象的であったのは、日本の製造現場で進んでいる機械化・自動化とは異なり、豊富な労働力を活用し、多くの工程を人の手によって行っていたことである。

日本、そして愛媛県では人口減少に伴う人手不足が深刻化し、製造業や林業をはじめ多くの産業で省力化、ロボット化、DX が大きな課題となっている。一方、ベトナムでは比較的豊富な労働力を背景として、人の手を活用した生産体制が現在も成り立っている。

実際に工場を視察することで、人口構造や人件費などの違いによって、同じ製造業であっても生産の考え方が大きく異なることを確認することができた。こうした違いを理解することも、今後、本県企業がベトナムをはじめとする海外市場と関係を深めていく上で重要である。



新工場視察後には旧工場へ移動し、TAVICO GROUP が製作した家具等の展示・販売状況についても調査した。

現地で実際の家具製品を見ることで、同社の木材加工技術の高さを確認することができた。また、愛媛県から原木として輸出された木材が、現地の技術によって家具や住宅部材などに加工され、新たな価値を持つ商品へと変わっていく過程を考える上でも大変参考となった。

愛媛県産材の海外展開を考える際には、輸出量を増やすことだけではなく、その木材が現地でどのように使われ、どのような付加価値を生み出しているのかという視点も必要である。

今後、県内企業の加工技術やデザイン等と組み合わせることができれば、原木だけでなく、加工材や家具、内装材など、より付加価値の高い製品として海外へ展開していく可能性も考えられる。

また、現在建設が進められているロンタイン国際空港においても、愛媛県産ヒノキを活用した材料や家具等の導入が計画されているとの説明を受け、翌日の現地視察につながる大変有意義な調査となった。



令和 8 年 9 月 5 日 ロンタイン国際空港建設現場視察

対応者：ACV 副社長 TRUONG TRUNG THANH 他、TAVICO GROUP 社長 VO QUANG HA 他

翌 9 月 5 日は、ドンナイ省で建設が進められているロンタイン国際空港を訪問し、新空港の整備状況及び愛媛県産材の活用について調査を行った。

ロンタイン国際空港は、既存のタンソンニャット国際空港の混雑緩和と、今後増加が見込まれる航空需要への対応を目的として整備が進められている、ベトナムの国家的な大規模インフラプロジェクトである。

ベトナムのさらなる経済発展や国際交流を支える重要な玄関口となることが期待されており、このような大規模な国際空港に愛媛県産材が使用されることには大きな意義がある。

当日は、空港建設現場の事務所において、空港運営を担う ACV（Airports Corporation of Vietnam）の関係者から、新空港の概要や建設状況について説明を受けるとともに、愛媛県産材の具体的な活用について意見交換を行った。

前日に視察した TAVICO GROUP が加工する愛媛県産ヒノキについて、このロンタイン国際空港の施設内で活用する計画が進められている。

意見交換終了後には、実際に建設中の空港施設へ移動し、愛媛県産材を活用したプレイヤールームや家具等の設置予定場所を視察した。

建設中の巨大な空港施設を実際に確認しながら、愛媛県で育ったヒノキが海を渡り、ベトナムを代表する国際空港の一部として利用される予定であることを直接確認できたことは、今回の視察の中でも特に印象深いものであった。

国際空港は、世界各国から多くの人々が訪れる場所である。

そのような場所に愛媛県産ヒノキを使用した空間や家具が設けられることは、単なる木材の納入にとどまらず、愛媛県産材そのものを世界に発信する機会になり得る。

特にヒノキには、木目や色合いだけではなく、香りや手触りなど、実際に触れることで感じることのできる魅力がある。空港を利用する多くの人々が愛媛県産材に触れることによって、日本の木材、さらには「EHIME」という地域そのものへの関心につながることも期待したい。

また、今回の空港での採用実績を一つのモデルケースとして終わらせないことも重要である。

ベトナム国内では今後も都市開発や住宅、ホテル、商業施設などへの投資が進むことが予想される。ロンタイン国際空港での活用を実績として、ホテル、商業施設、高級住宅、公共施設、家具市場など、新たな販路へつなげていくことができれば、県産材の継続的な需要創出につながる可能性がある。



空港視察後には、ACV 副社長、TAVICO GROUP、愛媛県森林組合連合会の三者による、愛媛県産材の利活用に関する調印式が行われた。



今回の一連の視察を通じて強く感じたのは、愛媛県産材の海外展開について、「原木を輸出する」ことだけを目的とするのではなく、その先にある加工、製品化、建築、ブランド化、そして継続的な販路の確保までを一つの流れとして捉える必要があるということである。

ベトナムでは今後も経済成長が期待され、所得水準の向上に伴い、価格だけではなく品質やデザイン、付加価値を重視する消費者層が拡大することが考えられる。

日本産材は価格面では他国産材との競争が課題となる一方、同じ価格競争の土俵に乗るのではなく、高品質な素材としてブランド化し、富裕層や高付加価値市場をターゲットとすることで、新たな需要を開拓できる余地は十分にあると考える。

そのためには、愛媛県産ヒノキの品質を伝えるだけでなく、産地としての愛媛の森林、木材を育てる人々、加工技術、さらには環境面での価値なども含めて発信していくことが必要である。

また、県産材の輸出拡大は、単なる海外ビジネスというだけではなく、本県の森林・林業政策にもつながるものである。

木材需要が拡大し、適正な価格で取引されることによって森林所有者や林業関係者の所得向上につながれば、森林整備や再造林を進める力にもなる。県産材の海外展開を「輸出政策」としてだけではなく、「林業振興」「森林保全」「地域経済」の視点から一体的に考えていくことが重要である。

今回、愛媛県産ヒノキが TAVICO GROUP を通じて加工され、さらにベトナムの国家的プロジェクトであるロンタイン国際空港で活用されようとしていることは、本県林業・木材産業の海外展開にとって大きな機会である。

そして、その背景には、これまで愛媛とベトナムの関係者が長い時間をかけて築いてきた信頼関係がある。

今回の調印を一つの到達点とするのではなく、新たなスタートとして、TAVICO GROUP や ACV との関係をさらに深め、県、愛媛県森林組合連合会、県内林業・木材関係事業者等が連携しながら、継続的な販路開拓を進めることが求められる。

さらには、原木の輸出量を増やすだけではなく、県内での加工や商品開発によって付加価値を高めた上で輸出することや、現地企業との共同による商品開発など、新たな展開についても検討する価値があると考ええる。

今回の三日間の視察は、愛媛県産材が海外で実際にどのように加工され、どのような場所で利用されようとしているのかを直接確認するとともに、ベトナム市場の可能性や課題、そして海外展開における人的な信頼関係の重要性を学ぶ貴重な機会となった。

今回得られた知見と人的ネットワークを今後の県政にも生かし、愛媛県産材のさらなる海外展開、本県林業・木材産業の振興、そして森林資源を生かした持続可能な地域経済の構築につなげていきたい。

愛媛県議会森林・林業・林産業活性化促進議員連盟
ベトナム視察 参加者名簿

日程 令和8年9月3日（木）～令和8年9月6日（日）

No.	氏 名	
1	高山 康人	副会長
2	兵頭 竜	事務局長
3	笹岡 博之	理事
4	越智 忍	
5	塩出 崇	
6	大石 豪	
7	中田 晃太郎	
8	井川 剛	
9	神野 恭多	